

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 大阪府 |
|-------|-----|

I 学校の概要(平成15年4月現在)

| | | | | | | |
|-----|-------------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 羽曳野市立羽曳野中学校 | | | | | |
| 学 年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 2 | 3 | 2 | 1 | 8 | 22 |
| 生徒数 | 62 | 76 | 57 | 1 | 196 | |

※2年生は弾力的運用

II 研究の概要

1. 研究主題

| |
|---|
| <p>テ ー マ : わかる授業+支え合う仲間=学習集団への道 育てたい力 : L A C はびきの (Learning=学習力 Application=応用力 Creation=創造力) は=はっきりと伝える力 聞く態度 び=ひとを大切にする力 き=基本を大切にした学 の=伸びようとする力 重点目標 : 基礎・基本となる学力の定着をめざして ~より効果的な授業形態と学習内容の追求~</p> |
|---|

2. 研究内容と方法

(1)実施学年・教科

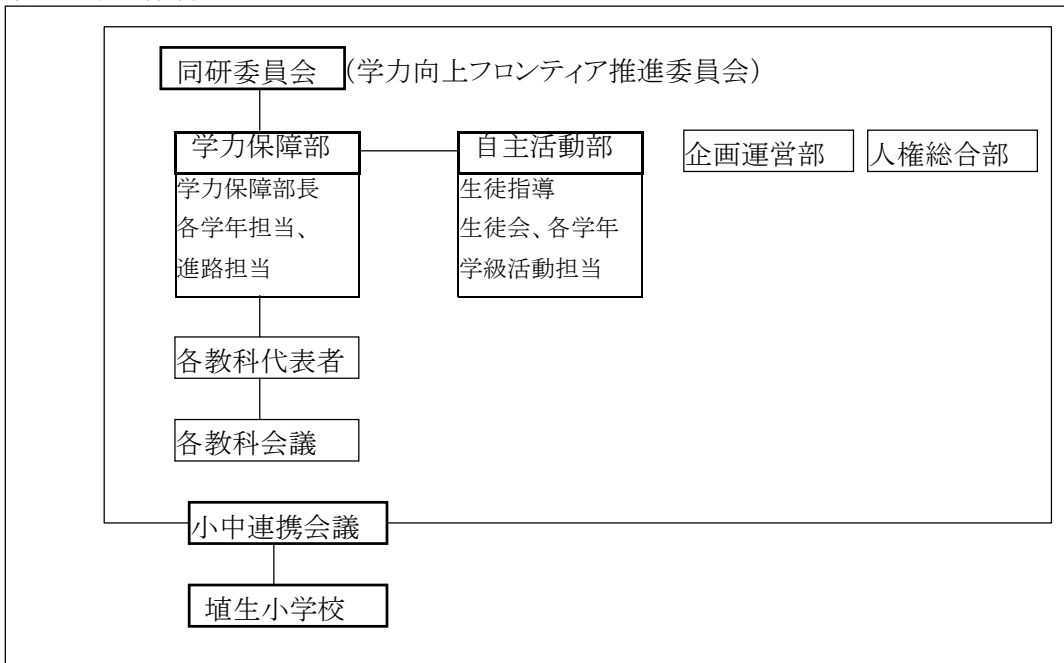
| |
|---|
| <p><基礎・基本となる学力を定着させるための3つの柱> ①こんな授業をつくろう <わかる 楽しい みんなで> ②学習を通した仲間づくり <自分らしさ 仲間として やればできる> ③定着と自主学習力 <自主的に わかるまで 続ける></p> <p><数学> ・1年生 入り込み指導(他教科からのTT) 中学校スタート時において、基礎・基本の定着を図るとともに、本校がめざす学習集団の育成を図る。 ・2・3年生 課題別コース選択制(習熟度別学習) 理解に個人差が現れやすい教科であり、少人数授業の効果が現れやすい教科である。以前から実施し、学校としての研究実績がある。</p> <p><英語> ・1・3年生 少人数分割授業 コミュニケーション能力を身につけることが求められている教科であり、理解と習熟に個人差が現れやすい教科でもある。1年生の導入期において、英語への興味・関心を高め、基礎・基本の定着を図る。 3年生においては習熟度別学習の実施により、つまづきを取り返し、学習意欲を高め学力差を克服するとともに、発展的な学習に取り組む。</p> <p><国語> ・2・3年生 少人数分割授業 文法・作文・漢字や熟語などの単元の学習において実施し、基礎・基本の定着を図るとともに、授業方法と学習効果の研究を進める。</p> |
|---|

(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>○テーマ： わかる授業＋支え合う仲間＝学習集団への道 ～基礎・基本となる学力の定着をめざして～ (より効果的な授業形態と学習内容の追求)</p> <p>○研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく丁寧な授業は学習意欲を高め、集団を高める。よりよい集団は授業の質を高め、学習意欲をより高め、生徒個々の学力を向上させることができる。 ・課題別、習熟度別の授業は学習理解を高める。 <p>○研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数、習熟別学習などを行い、基礎・基本の定着を図り、学習意欲を高めるとともに、仲間を支え合える集団づくりに努める。 ・学力課題の共有化と意思統一を図り、教職員集団づくりに努める。 |
|--------|--|

| | |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>○テーマ： わかる授業＋支えあう仲間＝学習集団への道 ～基礎・基本となる学力の定着をめざして～ (小・中学校の連携の充実)</p> <p>○研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数、習熟度別学習は学習意欲と学力を高め、学習集団の質を高める。 ・小・中学校の連携の充実は、学習集団づくりと学力向上を図ることができる。 <p>○研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力課題に応じた学習方法を柔軟に実施する。 ・一小一中の現状を生かし、小・中学校の学習内容における連携を充実する。 ・教職員集団づくり(共通理解と意思統一)を一層進める。 ・スーパーバイザーからの指導受け、課題の整理と改革の方向性を追求する。 |
|--------|--|

(3) 研究推進体制



- 同研委員会(学力向上フロンティア委員会)は4つの部からの方針を点検・指導する。
- 学力保障部と自主活動部は日々の情報交換をはじめ強く連携し、学習集団づくりに向けた方針を提起する。

Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・少人数分割授業を実施した英語では、授業の集中度や学習意欲が高まった。
- ・課題別コース選択制(習熟度別学習)を実施した数学では、75%以上の生徒が自分が選択したコースが合っていたと回答し、(コース変更を重ねるほど高くなる)授業への意欲や集中度が高まった。また、大きく成績をアップさせた生徒がいる。
- ・国語の文法や作文、漢字などの単元で少人数授業を行うことにより、漢字を書き取る力がアップした。また、文法の理解度や作文等での表現力が高まった。
- ・少人数授業、課題別コース選択制(習熟度別学習)の実施により、多くの生徒が意欲的に学習に取り組めると感想で述べている。
- ・生徒・保護者・教員とも、全授業での授業への集中度の高まりと少人数でのきめ細かな指導の効果を感じている。

2. 今後の課題

- ・一人ひとりの課題に応じた指導ができるよう、指導方法の工夫・改善を行うとともに個々に応じた教材の開発。
- ・少人数授業を実施時のより効果的なクラス編成の方法。
- ・小規模校で教員数が少ないため、教職員の一人ひとりの指導力の向上を図り、教職員集団としてのまとまり(共通理解と意思統一)を高めること。
- ・生徒個々がかかえている課題に対応し、教職員、保護者、地域が一体となって学力向上を図る取り組みを進めること。(家庭学習の定着を図る取り組みの充実)

Ⅳ 学力把握のための学校としての取り組み

- ・入学当初に基礎学力テストを実施。(国語、数学、ローマ字)
(開校以来継続して実施)
- ・定期テストと実力テストの評価と学力分析の実施
(過去のテストとの比較、度数分布表等を活用し学年の課題の明確化)
- ・朝学テストの評価と分析
(毎日の朝の学習→家庭学習用週末プリント→朝学テスト→評価・分析)
- ・各教科で単元の確認テスト

Ⅴ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成15年6月24日 公開授業
「平成15～16年度 文部科学省研究委嘱・大阪府学力向上フロンティア事業」
「平成15年度 南河内地区少人数等きめ細かな指導実践研究協議会」
場所：羽曳野市立羽曳野中学校
対象：南河内地区小中学校教員 中部地域中学校フロンティアスクール教員
内容：国語(少人数分割授業) 数学(習熟度別学習) 選択履修(5教科)の授業を公開し、その後、研究協議会を実施。
- 羽曳野市中学校教育改革推進委員会での報告
毎月、羽曳野中学校で開催される委員会議で、フロンティアティーチャーが取り組み内容と研究成果を報告。
(羽曳野市小中学校教育改革委員会で中間まとめを元に報告会を実施予定)